



長崎は、私の好きなお町である。
（「フスの名産製菓めぐり」余賀・2017年5月号の雑誌「フス」25頁）

旧丸山遊郭裏にて 昭和三十八年7月 写真提供 文藝春秋

令和5年度企画展

長崎と私

吉村昭百七回の探訪



令和5年
11月1日水 → **12月24日日**

開館時間：9時～20時30分 休館日：11月16日(木)・12月1日(金)・21日(木) 入館料：無料
会場：ゆいの森あらかわ 3階 企画展示室

詳細は
こちら



吉村昭記念文学館

令和5年度企画展

長崎と私

～吉村昭 百七回の探訪～

このたび吉村昭記念文学館では、令和5年度企画展「長崎と私～吉村昭 百七回の探訪～」を開催いたします。

昭和41年(1966)3月、吉村は「戦艦武蔵」の取材のために初めて長崎を訪れました。歴史や文化に魅了された吉村は、以後年に数回、歴史小説の資料調査などで長崎を訪れるようになります。医学、開国、漂流をはじめ、長崎の歴史に培われたテーマを扱い、多くの作品を執筆しました。温かく迎えてくれる人々の気質やおいしい料理などにも魅せられ、生涯を通して百七回の訪問を重ねました。

この度の企画展では、小説家として大きく飛躍するきっかけとなった「戦艦武蔵」の舞台地である「長崎」に焦点を合わせ、長崎に関連する歴史小説を中心に取り上げます。あわせて、吉村が愛した長崎の風情やゆかりの場所などを紹介します。

長崎の魅力を堪能していただけたら幸いです。



三菱重工長崎造船所を訪れた吉村 昭和40年代前半頃 (津村節子氏寄託資料)



〈表〉



〈裏〉

シーボルト妻子像螺鈿合子(複製) (シーボルト記念館蔵)
蓋の表面にお滝、裏面に「ふおん・しいほととの娘」の主人公お稻の絵が描かれている



自筆原稿「長英の隠された足跡」 (津村節子氏寄託資料)
平成9年8月「カピタン」に発表。元の自筆原稿は無題だった。



吉村が好んで通った「福壽」の血うどんと「はくしか」のおでん



第800番船「武蔵」進水支綱切断の斧と支え台 (三菱重工長崎造船所史料館蔵)
「武蔵」の進水式で支え綱を切断した時に使用した



【表面】 絵図：「唐蘭館絵巻、蘭館図、蘭船入港図」長崎歴史文化博物館蔵 書影：「戦艦武蔵」昭和41年 新潮社、「戦艦武蔵ノート」昭和45年 図書出版社 『冬の鷹』昭和49年 毎日新聞社 『磯』昭和50年 文藝春秋 『ふおん・しいほととの娘』(上・下) 昭和53年 毎日新聞社 『長英逃亡』(上・下) 昭和59年 毎日新聞社 『海の祭礼』昭和61年 文藝春秋 『コロナイ遭難』平成5年 岩波書店 『暁の旅人』平成17年 講談社

イベント情報

●講演会

「吉村昭の『律儀』と長崎を深掘りする
～お世話になった長崎の一人として～

日時：11月19日(日)14時～(60分程度)

講師：本馬貞夫氏(長崎県長崎学アドバイザー)

会場：ゆいの森あらかわ 1階 ゆいの森ホール

定員：120名(申込順)

内容：吉村昭の執筆した長崎が舞台の歴史小説を中心に、長崎の歴史や文化を交えて語っていただきます。

●スタンプラリー 申込不要

令和5年度企画展スタンプラリー

つなげてみよう「長崎⇄吉村昭⇄ゆいの森」

期間：11月7日(火)～12月24日(日)(先着120名様)

内容：ゆいの森あらかわの施設内3カ所に設置されたスタンプを集めると景品をプレゼントします!

【ご来館の皆様へのごお願い】体調がすぐれない場合はご来館をお控えください。

参加費無料

●展示解説

日時：11月15日(水)、12月3日(日)

いずれも14時から30分程度

会場：ゆいの森あらかわ 3階 企画展示室

定員：15名程度

参加費：無料

●講演会申込み方法

①～③のいずれかの方法でお申込みください。

①ゆいの森あらかわ1階総合カウンター

②ゆいの森あらかわHP

<https://www.yuinomori.city.arakawa.tokyo.jp/>

③FAX(03-3802-4350)

イベント名、氏名(フリガナ)、郵便番号、住所、電話番号をご記入ください。



〒116-0002 東京都荒川区荒川二丁目50番1号
(ゆいの森あらかわ内)
TEL.03-3891-4349 FAX.03-3802-4350
<https://www.yoshimurabungakukan.city.arakawa.tokyo.jp>

都電荒川線 荒川二丁目(ゆいの森あらかわ前) 徒歩1分
東京メトロ千代田線・京成線 町屋駅 徒歩8分
コミュニティバス「さくら」ゆいの森あらかわ(土日祝のみ)

吉村昭記念文学館